

琵琶湖高島沖コアの年代モデル改訂について Revision of age model for Takashima-oki drilling core, Lake Biwa, Japan

井内 美郎^{1*}, 山田 和芳¹, 岡村 眞², 松岡 裕美², 里口保文³, 林竜馬³, 根上 裕成⁴, 村越貴之⁴, 岡田 涼祐⁵, 松久 幸樹⁵, 橋本 岳⁵, 松野下晃治⁵, 赤田賢亮⁵
Yoshio Inouchi^{1*}, kazuyoshi yamada¹, Makoto Okamura², Hiromi Matsuoka², Yasuhumi, Satoguchi³, Ryoma, Hayashi³, Hiroshige NEGAMI⁴, Takayuki, Murakoshi⁴, ryosuke okada⁵, Koki Matsuhisa⁵, Gaku Hashimoto⁵, Koji, Matsunoshita⁵, Takasuke, Akata⁵

¹ 早稲田大学人間科学学術院, ² 高知大学理学部, ³ 滋賀県琵琶湖博物館, ⁴ 早稲田大学大学院人間科学研究科, ⁵ 早稲田大学人間科学部, ⁶, ⁷, ⁸, ⁹, ¹⁰, ¹¹, ¹², ¹³.

¹Faculty of Human Sciences, Waseda University, ²Faculty of Science, Kochi University, ³Lake Biwa Museum, ⁴Graduate School of Human Sciences, Waseda University, ⁵School of Human Sciences, Waseda University, ⁶, ⁷, ⁸, ⁹, ¹⁰, ¹¹, ¹², ¹³.

1986年に琵琶湖北湖において採取された高島沖ボーリング試料については様々な分析が行われ、気候変動に関する様々な報告が公表されている。現在はさらに高分解能の古気候記録を復元するために試料間隔を狭めた分析が進行中である。その際にネックとなるのが年代コントロールであるため、高島沖採泥点で再度試料を採取し、年代測定を行うこととした。高知大学所有のピストンコアを用いて3本の試料を採取した。採取試料長は約16mで現在得られている最下部の年代は深度約14.5mで約45kaBPである。

コア間の対比は主要テフラおよび含水率プロファイルによっている。含水率は5mm毎に測定し、5cm毎に測定した高島沖コアの含水率と比較した。その結果、コア間には非常に良い対応が見られた。一方、K-AhおよびU-Okiの深度に関しては、炭素年代との比較の結果、訂正を要する可能性が浮上した。今回得られたコア試料については、今後粒度測定、全炭素・全窒素濃度測定を実施する予定であり、高島沖コアとの対比の精度をさらに上げていく予定である。

キーワード: 琵琶湖, 堆積物, 高島沖, 年代, 古気候, テフラ

Keywords: Lake Biwa, sediment, Takashima-oki, age, paleoclimate, tephra